

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-157514

(P2010-157514A)

(43) 公開日 平成22年7月15日(2010.7.15)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
<b>H05B 33/26 (2006.01)</b>	H05B 33/26 Z	3K107
<b>G09F 9/30 (2006.01)</b>	G09F 9/30 349C	5C080
<b>H01L 27/32 (2006.01)</b>	G09F 9/30 338	5C094
<b>G09G 3/30 (2006.01)</b>	G09F 9/30 365Z	5C380
<b>G09G 3/20 (2006.01)</b>	G09G 3/30 J	
審査請求 有 請求項の数 11 O L (全 24 頁) 最終頁に続く		

(21) 出願番号	特願2010-17669 (P2010-17669)	(71) 出願人	000002185
(22) 出願日	平成22年1月29日 (2010.1.29)		ソニー株式会社
(62) 分割の表示	特願2008-11004 (P2008-11004)		東京都港区港南1丁目7番1号
	の分割	(74) 代理人	100120640
原出願日	平成20年1月21日 (2008.1.21)		弁理士 森 幸一
		(74) 代理人	100118290
			弁理士 吉井 正明
		(74) 代理人	100094363
			弁理士 山本 孝久
		(72) 発明者	山下 淳一
			東京都港区港南1丁目7番1号 ソニー株
			式会社内
		(72) 発明者	山本 哲郎
			東京都港区港南1丁目7番1号 ソニー株
			式会社内
			最終頁に続く

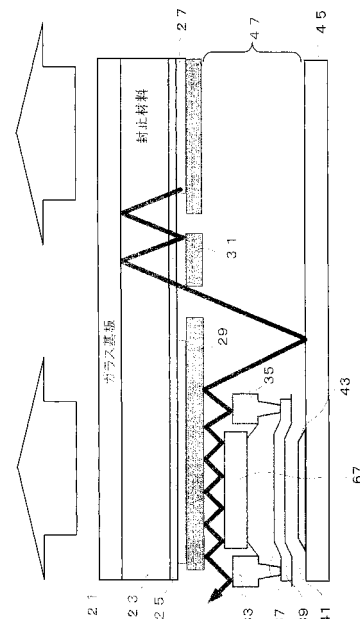
(54) 【発明の名称】 E L表示パネル及び電子機器

## (57) 【要約】

【課題】内部散乱光の影響による閾値電圧変動を抑制するパネル構造を提案する。

【解決手段】アクティブマトリクス駆動方式に対応した画素構造を有するE L表示パネルに、内部散乱光を遮光する構造を採用する。すなわち、画素回路を構成するサンプリングトランジスタのチャネル層よりも上層に位置する金属配線材料の一部パターンを、サンプリングトランジスタのチャネル領域を塞ぐようにレイアウトする。

【選択図】図13



**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

映像信号の書き込みを制御するサンプリングトランジスタと、当該サンプリングトランジスタによって書き込まれた映像信号に応じて有機 E L 素子を駆動する駆動トランジスタとを含む、アクティブマトリクス駆動方式に対応した画素回路を備え、

前記画素回路は、前記駆動トランジスタの移動度を補正する機能を有し、

前記サンプリングトランジスタはチャンネル層を有する薄膜トランジスタであり、

前記サンプリングトランジスタのチャンネル層よりも上層に位置する金属配線材料の一部パターンが、前記サンプリングトランジスタのチャンネル領域を塞ぐようにレイアウトされてなる

10

有機 E L 表示パネル。

**【請求項 2】**

映像信号の書き込みを制御するサンプリングトランジスタと、当該サンプリングトランジスタによって書き込まれた映像信号に応じて有機 E L 素子を駆動する駆動トランジスタとを含む、アクティブマトリクス駆動方式に対応した画素回路を備え、

前記画素回路は、前記駆動トランジスタの移動度を補正する機能を有し、

前記サンプリングトランジスタはチャンネル層を有する薄膜トランジスタであり、

前記サンプリングトランジスタのチャンネル領域を塞ぐように遮光パターンがレイアウトされてなる

有機 E L 表示パネル。

20

**【請求項 3】**

前記移動度の補正は、前記サンプリングトランジスタのオン期間において、前記駆動トランジスタを流れる電流の大きさに応じてなされる

請求項 1 または請求項 2 に記載の有機 E L 表示パネル。

**【請求項 4】**

前記移動度の補正は、前記サンプリングトランジスタのオン期間において、前記有機 E L 素子に接続された保持容量に充電された電位に基づいてなされる

請求項 3 に記載の有機 E L 表示パネル。

**【請求項 5】**

前記一部パターンは、前記サンプリングトランジスタの主電極との間に印加される最大電圧がカットオフ電圧以下に設定された固定電位線に接続される

30

請求項 1 に記載の有機 E L 表示パネル。

**【請求項 6】**

前記一部パターンは、前記サンプリングトランジスタの主電極との間に印加される最大電圧がカットオフ電圧以下に設定されたパルス信号線に接続される

請求項 1 に記載の有機 E L 表示パネル。

**【請求項 7】**

前記一部パターンは、前記サンプリングトランジスタのゲート電極の制御線に接続される

請求項 1 に記載の有機 E L 表示パネル。

40

**【請求項 8】**

前記遮光パターンは、金属原子を注入した半導体材料で形成される

請求項 2 に記載の有機 E L 表示パネル。

**【請求項 9】**

前記遮光パターンは、有機材料で形成される

請求項 2 に記載の有機 E L 表示パネル。

**【請求項 10】**

映像信号の書き込みを制御するサンプリングトランジスタと、当該サンプリングトランジスタによって書き込まれた映像信号に応じて有機 E L 素子を駆動する駆動トランジスタとを含む、アクティブマトリクス駆動方式に対応した画素回路を備え、

50

前記画素回路は、前記駆動トランジスタの移動度を補正する機能を有し、  
前記サンプリングトランジスタはチャンネル層を有する薄膜トランジスタであり、  
前記サンプリングトランジスタのチャンネル層よりも上層に位置する金属配線材料の一部パターンが、前記サンプリングトランジスタのチャンネル領域を塞ぐようにレイアウトされてなる

有機ＥＬ表示パネルと、  
システム全体の動作を制御するシステム制御部と、  
前記システム制御部に対する操作入力を受け付ける操作入力部と  
を有する電子機器。

【請求項１１】

映像信号の書き込みを制御するサンプリングトランジスタと、当該サンプリングトランジスタによって書き込まれた映像信号に応じて有機ＥＬ素子を駆動する駆動トランジスタを含む、アクティブマトリクス駆動方式に対応した画素回路を備え、

前記画素回路は、前記駆動トランジスタの移動度を補正する機能を有し、  
前記サンプリングトランジスタはチャンネル層を有する薄膜トランジスタであり、  
前記サンプリングトランジスタのチャンネル領域を塞ぐように遮光パターンがレイアウトされてなる

有機ＥＬ表示パネルと、  
システム全体の動作を制御するシステム制御部と、  
前記システム制御部に対する操作入力を受け付ける操作入力部と  
を有する電子機器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

この明細書で説明する発明は、アクティブマトリクス駆動方式で駆動制御されるＥＬ表示パネルに関する。なお、この明細書で提案する発明は、ＥＬ表示パネルを搭載する各種の電子機器としての側面も有する。

【背景技術】

【０００２】

図１に、アクティブマトリクス駆動型の有機ＥＬパネルに用いられる回路ブロックの構成例を示す。図１に示す有機ＥＬパネル１は、画素アレイ部３と、その駆動回路である書込制御スキャナ５、電源線スキャナ７及び水平セクタ９とで構成される。

【０００３】

画素アレイ部３は、信号線ＤＴＬと書込制御線ＷＳＬの各交点にサブ画素１１を配置したマトリクス構造を有している。サブ画素１１は、１画素を構成する画素構造の最小単位である。例えばホワイトユニットとしての１画素は、有機ＥＬ材料の異なる３つのサブ画素（Ｒ（赤）画素、Ｇ（緑）画素、Ｂ（青）画素）の集合体として構成される。

【０００４】

この明細書で説明するサブ画素１１は、アクティブ駆動方式に対応する。従って、サブ画素１１は、発光領域（有機ＥＬ素子）と画素回路とで形成されている。なお、発光領域を構成する有機ＥＬ素子は電流発光素子である。従って、有機ＥＬパネルの輝度階調は、各画素に対応する有機ＥＬ素子に流れる電流量により制御される。この電流の供給を一定期間継続するのが画素回路の機能である。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００５】

参考までに、アクティブマトリクス駆動方式を採用する有機ＥＬパネルディスプレイに関する文献を例示する。

【特許文献１】特開２００３－２５５８５６号公報

【特許文献２】特開２００３－２７１０９５号公報

10

20

30

40

50

【特許文献 3】特開 2 0 0 4 - 1 3 3 2 4 0 号公報

【特許文献 4】特開 2 0 0 4 - 0 2 9 7 9 1 号公報

【特許文献 5】特開 2 0 0 4 - 0 9 3 6 8 2 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

図 2 に、サブ画素 1 1 を構成する最も単純な画素回路の一つを示す。図 2 に示す画素回路は、薄膜トランジスタ T 1、T 2 及び保持容量 C s で構成される。以下、薄膜トランジスタ T 1 を「サンプリングトランジスタ T 1」といい、薄膜トランジスタ T 2 を「駆動トランジスタ T 2」という。

【0007】

サンプリングトランジスタ T 1 は、対応画素の階調に対応する信号電位 V sig の保持容量 C s への書き込みを制御する N チャネル型の薄膜トランジスタである。また、駆動トランジスタ T 2 は、保持容量 C s に保持された信号電位 V sig に応じて定まるゲート・ソース間電圧 V gs に基づいて駆動電流 I ds を有機 E L 素子 O L E D に供給する N チャネル型の薄膜トランジスタである。

【0008】

書込制御スキナ 5 は、サンプリングトランジスタ T 1 のオン・オフ動作を制御する回路デバイスである。また、電源線スキナ 7 は、電源線 D S L を高電位 V cc と低電位 V ss で駆動する回路デバイスである。水平セクタ 9 は、信号線 D T L を画素データ Din に対応する信号電位 V sig と閾値補正用の基準電位 V ofs で駆動する回路デバイスである。

【0009】

なお、発光期間中の電源線 D S L は高電位 V cc で駆動され、当該電源線 D S L から駆動トランジスタ T 2 を通じて有機 E L 素子 O L E D に駆動電流 I ds が供給される。因みに、発光期間中の駆動トランジスタ T 2 は、常に飽和領域で動作している。すなわち、駆動トランジスタ T 2 は、信号電位 V sig に応じた大きさの駆動電流 I ds を有機 E L 素子 O L E D に供給する定電流源として動作する。

【0010】

この駆動電流 I ds は、次式で与えられる。

$$I_{ds} = k \cdot \mu \cdot (V_{gs} - V_{th})^2 \quad (\text{式 1})$$

因みに、 $\mu$  は、駆動トランジスタ T 2 の多数キャリアの移動度である。また、 $V_{th}$  は、駆動トランジスタ T 2 の閾値電圧である。また、 $k$  は、 $(W/L) \cdot C_{ox}/2$  で与えられる係数である。ここで、 $W$  はチャネル幅、 $L$  はチャネル長、 $C_{ox}$  は単位面積当たりのゲート容量である。

【0011】

ところで、画素回路 1 1 の形成には、高温ポリシリコンプロセスだけでなく、低温ポリシリコンプロセスやアモルファスシリコンプロセスの適用も可能である。ただし、低温ポリシリコンプロセスやアモルファスシリコンプロセスを用いて形成した薄膜トランジスタには、閾値電圧  $V_{th}$  や移動度  $\mu$  に特性バラツキが現れ易くなる。

【0012】

特に駆動トランジスタ T 2 の特性バラツキは、駆動電流 I ds の大きさに直接影響する。すなわち、信号電位 V sig は同じでも、有機 E L 素子の輝度階調に違いが現れる。この輝度差が一定以上大きくなると、画面上でも輝度差が視認される。

そこで、この種の画素回路では、閾値電圧  $V_{th}$  や移動度  $\mu$  の補正技術が従来より提案されている。

【0013】

図 3 に、出願人によって提案されている特性補正機能付きの駆動動作例を示す。なお図 3 は、画素アレイ部 3 を構成する垂直解像度数分の水平ラインのうちのある 1 つの水平ラインの駆動動作例である。1 フレーム期間は非発光期間と発光期間で構成され、非発光期間に前述した特性補正動作が実行される。

10

20

30

40

50

## 【 0 0 1 4 】

なお図 3 ( A ) はある信号線 D T L の波形図を示し、図 3 ( B ) は書込制御線 W S L の波形図を示し、図 3 ( C ) は電源線 D S L の波形図を示している。また図 3 ( D ) は駆動トランジスタ T 2 のゲート電位  $V_g$  の波形図を示し、図 3 ( E ) は駆動トランジスタ T 2 のソース電位  $V_s$  の波形図を示す。

## 【 0 0 1 5 】

図 3 に示す駆動動作の内容を簡単に説明する。図 3 に示す駆動動作では、非発光期間の開始タイミングで電源線 D S L の電位が低電位  $V_{ss}$  に切り替え制御される。これに伴い、駆動トランジスタ T 2 のソース電位  $V_s$  は、低電位  $V_{ss}$  に達するように低下する。なお、カソード電位  $V_{cat}$  に有機 E L 素子 O L E D の閾値電圧  $V_{thel}$  を加算した電位  $V_{cat} + V_{thel}$  よりもソース電位  $V_s$  が低下した時点で、有機 E L 素子 O L E D は自動的に消灯する。

10

## 【 0 0 1 6 】

また、この動作の際、駆動トランジスタ T 2 のゲート電極はオープン状態にあるので、ソース電位  $V_s$  の電位低下に連動してゲート電位  $V_g$  も低下する。

次に、駆動トランジスタ T 2 の閾値補正動作を説明する。駆動トランジスタ T 2 の閾値補正動作は、電源線 D S L が再び高電位  $V_{cc}$  に制御されることで開始される。なお、ここでの高電位  $V_{cc}$  は、次の発光期間の終了時点まで継続される。

## 【 0 0 1 7 】

なお、サンプリングトランジスタ T 1 は、電源線 D S L が高電位  $V_{cc}$  に立ち上がる前にオン状態に制御され、駆動トランジスタ T 2 のゲート電位  $V_g$  がオフセット電位  $V_{ofs}$  に固定される。これにより、駆動トランジスタ T 2 のゲート・ソース間電圧  $V_{gs}$  は、その閾値電圧  $V_{th}$  より広い電圧  $V_{ofs} - V_{ss}$  にプリセットされる。

20

このプリセット状態において、電源線 D S L が高電位  $V_{cc}$  に切り換えられると、駆動トランジスタ T 2 に電流が流れ、図 4 に示すように、ソース電位  $V_s$  が上昇する。

## 【 0 0 1 8 】

この電流は、保持容量  $C_s$  と有機 E L 素子 O L E D に寄生する容量を充電するように流れる。寄生容量の充電に伴い、駆動トランジスタ T 2 のソース電位  $V_s$  は上昇する。そして、ソース電位  $V_s$  が  $V_{ofs} - V_{th}$  に達した時点で駆動トランジスタ T 2 は自動的にカットオフ動作する。これにより、閾値補正が完了する。なお、 $V_{ofs} - V_{th}$  は、 $V_{cat} + V_{thel}$  より小さい条件を満たすので、この時点で有機 E L 素子 O L E D が発光することはない。

30

## 【 0 0 1 9 】

この後、サンプリングトランジスタ T 1 は、一度オフ制御される。この後、信号線 D T L に信号電位  $V_{sig}$  が印加されたタイミングで、サンプリングトランジスタ T 1 は再びオン制御される。これにより、駆動トランジスタ T 2 のゲート・ソース間電圧  $V_{gs}$  は再び閾値電圧  $V_{th}$  より大きくなり、信号電位  $V_{sig}$  に応じた大きさの電流が流れ始める。これが書込兼移動度補正動作である。

## 【 0 0 2 0 】

この場合も、電流は、保持容量  $C_s$  と有機 E L 素子 O L E D の寄生容量を充電するように流れる。なお、駆動トランジスタ T 2 に流れる電流は移動度  $\mu$  の大きさに依存し、移動度  $\mu$  の大きい駆動トランジスタ T 2 には大きな電流が流れ、移動度  $\mu$  の小さい駆動トランジスタ T 2 には小さい電流が流れる。

40

## 【 0 0 2 1 】

結果的に、移動度  $\mu$  の大きい駆動トランジスタ T 2 のソース電位  $V_s$  の上昇は、移動度  $\mu$  の小さい駆動トランジスタ T 2 のソース電位  $V_s$  の上昇よりも大きくなる。図 5 に、移動度  $\mu$  の大きさの違いによる駆動トランジスタ T 2 のソース電位  $V_s$  の変化の違いを示す。

この移動度補正動作が終了すると、サンプリングトランジスタ T 1 はオフ制御され、駆動トランジスタ T 2 の駆動電流  $I_{ds'}$  は有機 E L 素子 O L E D へと流れ始める。これによ

50

り、有機EL素子OLEDの新たな発光期間が開始される。

【0022】

ところで、前述した駆動動作で実行される補正動作は、駆動トランジスタT2の特性バラツキの補正を目的とする。すなわち、サンプリングトランジスタT1の特性バラツキの補正動作は用意されていない。これは、サンプリングトランジスタT1がスイッチング駆動され、特性バラツキの影響が小さいことが一因である。

【0023】

ただし、サンプリングトランジスタT1の閾値電圧 $V_{th}$ の変動は（すなわち、オン期間の変動は）、駆動トランジスタT2の移動度補正の動作点の変動を発生させ、移動度補正の精度に影響する。すなわち、輝度レベルを変動させる原因になる。

10

【0024】

閾値電圧 $V_{th}$ を変動させる原因の一つに、発光期間中の逆（負）バイアスがある。図6に、発光期間中の電位状態を示す。図6は、信号電位 $V_{sig}$ が白階調時の電位状態である。因みに、有機EL素子OLEDのアノード電位 $V_{el}$ （駆動トランジスタT2のソース電位 $V_s$ ）は5Vであり、駆動トランジスタT2のゲート電位 $V_g$ は10Vである。

【0025】

一方、サンプリングトランジスタT1のゲート電位 $V_g$ は-3Vであり、サンプリングトランジスタT1が継続的に逆（負）バイアスに制御される。このバイアス状態は、サンプリングトランジスタT1の閾値電圧 $V_{th}$ を低下させる方向に作用する。しかも、この閾値電圧 $V_{th}$ の変化は、パネル内の散乱光がサンプリングトランジスタT1に入射することで増幅される。

20

【0026】

図7に、トップエミッション構造を有する有機ELパネルの断面構造例を示す。なお、トップエミッション構造とは、封止基板側から光が射出されるタイプのパネル構造をいうものとする。図中、封止基板は、ガラス基板21が相当する。もっとも、封止基板には、プラスチックフィルムその他の透過性材料も使用することができる。

【0027】

封止基板21の下層には透過性の高い封止材料23が塗布される。封止材料23の下層には、有機EL素子OLEDを形成するカソード電極25、有機層27、アノード電極29が順番に形成される。なお、カソード電極25は光透過性材料で形成されている。一方、アノード電極29は金属材料で形成される。

30

【0028】

また図7の場合、アノード電極29とアノード電極29との隙間部分に補助配線31が配置される。補助配線31は、カソード電極25にカソード電位を供給する配線であり、アノード電極29と同じ金属材料で形成される。この補助配線31は、パネルサイズが大きい場合に用いられることが多く、パネルサイズが小さい場合には用いられないことも多い。有機EL素子OLEDの下部には、画素回路が形成される。図7は、ボトムゲート型の薄膜トランジスタの例である。

【0029】

図7の場合、ソース電極33、ドレイン電極35、層間膜37、ポリシリコン層（チャネル層）39、ゲート酸化膜41、ゲート電極43が画素回路を構成する構造である。これら画素回路は、駆動素子が形成される基板（いわゆる回路基板）としてのガラス基板45の表面に形成される。なお、ガラス基板45と有機EL素子OLEDの下層電極層であるアノード電極29との間には層間膜47が形成されている。

40

【0030】

さて、矢印付きの太線で示した内部散乱光の説明に戻る。本来、有機EL素子OLEDで発生された光は、パネル内部から封止基板の外側へと射出される。

しかし、散乱光の一部はパネル内部で反射を繰り返し、図中の矢印で示すように、隣接画素を構成するサンプリングトランジスタT1のチャネル領域に入射する可能性がある。

【0031】

50

図 8 に、内部散乱光の入射と逆（負）バイアスの印加状態が継続する場合の閾値電圧  $V_{th}$  の特性変動を測定した結果の一例を示す。

図 8 に示すように、ストレス時間が長いほど閾値電圧  $V_{th}$  は徐々に低下し、1000 秒を越えるあたりから閾値電圧  $V_{th}$  の低下量が増加する。

【 0 0 3 2 】

なお、発明者らの実験では、発光色の違いによらず、同様の閾値電圧  $V_{th}$  の低下効果を確認することができた。なお、閾値電圧  $V_{th}$  の低下効果は、波長が短ほど大きいことが確認された。すなわち、青色に対応するサブ画素 1 1 から発生した内部散乱光の影響が最も大きかった。

【 0 0 3 3 】

さて、サンプリングトランジスタ  $T_1$  の閾値電圧  $V_{th}$  が下がると、図 9 に示すように、サンプリングトランジスタ  $T_1$  のオン期間は長くなる。

図 9 では、トランジェント特性を強調して表している。サンプリングトランジスタ  $T_1$  におけるオン期間の長期化は、移動度補正時間の増加として現れる。すなわち、移動度補正の動作点の変動として現れる。

【 0 0 3 4 】

移動度補正動作中は、駆動トランジスタ  $T_2$  のソース電位  $V_s$  の上昇を伴うので、補正時間が長くなるとその分、ゲート・ソース間電圧  $V_{gs}$  を小さくするように作用する。

この移動度補正後の駆動電流  $I_{ds}$  の大きさは、次式で表すことができる。

$$I_{ds} = k \cdot \mu \cdot \{ (V_{sig} - V_{ofs}) / [1 + (V_{sig} - V_{ofs}) \cdot k \cdot \mu \cdot t / C] \}^2 \quad (\text{式 2})$$

式 2 から分かるように、補正時間  $t$  が長いほど駆動電流  $I_{ds}$  の大きさが小さくなる。

【 0 0 3 5 】

すなわち、サンプリングトランジスタ  $T_1$  の閾値電圧  $V_{th}$  の変動が大きいと、結果的に本来の大きさよりも駆動電流  $I_{ds}$  が小さくなってしまふ。従って、閾値電圧  $V_{th}$  の変動を加速させる内部散乱光のサンプリングトランジスタ  $T_1$  への入射を抑制する技術が必要であると発明者らは考える。

【 0 0 3 6 】

なお、式 2 に現れる “  $C$  ” は、サブ画素 1 1 内の各容量成分の総和で与えられる。すなわち、“  $C$  ” は、図 10 に示すように、保持容量  $C_s$  と、有機 EL 素子 OLED 自体の容量成分  $C_{oled}$  と、有機 EL 素子 OLED と並列に接続される容量成分  $C_{sub}$  との総和として与えられる。もっとも、サブ画素 1 1 によっては、薄膜トランジスタ構造の容量成分  $C_{sub}$  が存在しない場合もある。

また、式 2 に現れる “  $t$  ” は、次式で与えられる。

$$t = C / (k \cdot \mu \cdot V_{sig}) \quad (\text{式 3})$$

【課題を解決するための手段】

【 0 0 3 7 】

発明者らは、アクティブマトリクス駆動方式に対応した画素構造を有する EL 表示パネルに、内部散乱光の遮光構造を追加することを提案する。

すなわち、画素回路を構成する薄膜トランジスタのチャネル層よりも上層に位置する金属配線材料の一部パターンを、薄膜トランジスタのチャネル領域を塞ぐようにレイアウトする構造を提案する。この構造の採用により、内部散乱光の薄膜トランジスタへの入射を防ぐことができる。

【 0 0 3 8 】

なお、前述した金属配線材料による一部パターンは、薄膜トランジスタの主電極との間に印加される最大電圧がカットオフ電圧以下に設定された固定電位線に接続されることが望ましい。もっとも、前述した金属配線材料による一部パターンは、薄膜トランジスタの主電極との間に印加される最大電圧がカットオフ電圧以下に設定されたパルス信号線に接続されていても良いし、薄膜トランジスタのゲート電極の制御線に接続されていても良い。

【 0 0 3 9 】

10

20

30

40

50

ところで、内部散乱光の遮光は必ずしも金属配線材料に限る必要はない。すなわち、遮光性能を有するパターン（遮光パターン）であれば、少なくとも内部散乱光の薄膜トランジスタへの入射量を低減することができる。

【0040】

例えば前述した遮光パターンは、金属原子を注入した半導体材料でも良い。また例えば前述した遮光パターンは、ブラックフィルタその他の有機材料でも良い。金属配線材料以外の遮光パターンの場合、金属配線材料に比べて遮光性能が劣るが内部散乱光の入射光量は確実に低下するので閾値電圧 $V_{th}$ の低下速度を小さくできる。

【0041】

また、発明者らは、前述した構造を有するEL表示パネルを搭載した電子機器を提案する。

ここで、電子機器は、EL表示パネルと、システム全体の動作を制御するシステム制御部と、システム制御部に対する操作入力を受け付ける操作入力部とで構成する。

【発明の効果】

【0042】

発明者らの提案する発明では、薄膜トランジスタの閾値電圧 $V_{th}$ の低下を加速させる原因であった内部散乱光のチャネル領域への到達を防ぐ又は到達する光量を小さくすることができる。この結果、移動度補正時の動作点変動（補正時間長の増加）を最小化できる。

【図面の簡単な説明】

【0043】

【図1】有機ELパネルの機能ブロック構成を説明する図である。

【図2】画素回路と駆動回路との接続関係を説明する図である。

【図3】図2に示す画素回路の駆動動作例を示す図である。

【図4】閾値補正動作時における駆動トランジスタのソース電位の変化を説明する図である。

【図5】移動度補正動作時における駆動トランジスタのソース電位の変化を説明する図である。

【図6】発光期間中における画素回路内の電位関係を説明する図である。

【図7】内部散乱光の伝搬経路を説明する図である。

【図8】サンプリングトランジスタの閾値電圧変動を説明する図である。

【図9】閾値電圧の変動と移動度補正時間の関係を説明する図である。

【図10】駆動電流に作用する容量成分を説明する図である。

【図11】有機ELパネルの外観構成例を示す図である。

【図12】画素回路と駆動回路との接続関係を説明する図である。

【図13】遮光パターンを使用する場合の内部散乱光の伝搬経路を説明する図である。

【図14】形態例1に係る画素回路の構成例を示す図である。

【図15】階調輝度と最適な移動度補正時間との関係を説明する図である。

【図16】階調輝度に応じた移動度補正時間の最適化に使用する書込制御信号の信号波形を説明する図である。

【図17】形態例において提案する書込制御スキナの回路構成を説明する図である。

【図18】形態例において提案する電源電圧パルスの波形例を説明する図である。

【図19】電源電圧パルスの発生回路系を説明する図である。

【図20】駆動電源発生部の内部構成例を説明する図である。

【図21】遮光パターンと図16に示す書込制御信号を組み合わせる場合の技術的な効果を説明する図である。

【図22】他の給電形態を説明する図である。

【図23】画素回路内の接続形態を説明する図である。

【図24】他の給電形態を説明する図である。

【図25】画素回路内の接続形態を説明する図である。

【図26】電子機器の概念構成例を示す図である。

10

20

30

40

50



【図 27】電子機器の商品例を示す図である。

【図 28】電子機器の商品例を示す図である。

【図 29】電子機器の商品例を示す図である。

【図 30】電子機器の商品例を示す図である。

【図 31】電子機器の商品例を示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0044】

以下、発明を、アクティブマトリクス駆動型の有機 EL パネルに適用する場合について説明する。

なお、本明細書で特に図示又は記載されない部分には、当該技術分野の周知又は公知技術を適用する。また以下に説明する形態例は、発明の一つの形態例であって、これらに限定されるものではない。

【0045】

(A) 外観構成

なお、この明細書では、画素アレイ部と駆動回路（例えば書込制御スキャナ及び電源線スキャナ）とを同じ半導体プロセスを用いて同じ基板上に形成した表示パネルだけでなく、例えば特定用途向け IC として製造された駆動回路を画素アレイ部の形成された基板上に実装したものも有機 EL パネルと呼ぶ。

【0046】

図 11 に、有機 EL パネルの外観構成例を示す。有機 EL パネル 51 は、支持基板 53 のうち画素アレイ部の形成領域に対向基板 55 を貼り合わせた構造を有している。

【0047】

支持基板 53 は、ガラス、プラスチックその他の基材で構成される。トップエミッション構造の場合、支持基板 53 の表面には画素回路が形成される。すなわち、支持基板 53 が回路基板に相当する。一方、ボトムエミッション構造の場合、支持基板 53 の表面には有機 EL 素子が形成される。すなわち、支持基板 53 が封止基板に相当する。

【0048】

対向基板 55 も、ガラス、プラスチックその他の透明部材を基材とする。対向基板 55 は、封止材料を挟んで支持基板 53 の表面を封止する部材である。なお、トップエミッション構造の場合、対向基板 55 が封止基板に相当する。また、ボトムエミッション構造の場合、対向基板 55 が回路基板に相当する。

【0049】

なお、有機 EL パネル 51 には、外部信号や駆動電源を入力するための FPC（フレキシブルプリントサーキット）57 が配置される。

【0050】

(B) 形態例 1

(B-1) システム構成

図 12 に、有機 EL パネル 61 のシステム構成例を示す。なお図 12 には、図 1 との対応部分に同一符号を付して示す。

図 12 に示す有機 EL パネル 61 は、画素アレイ部 63 と、その駆動回路である書込制御スキャナ 65、電源線スキャナ 7 及び水平セクタ 9 とで構成される。

【0051】

(1) 画素アレイ部の構成

画素アレイ部 63 の画素構造は、図 1 に示す画素構造と同じである。すなわち、画素アレイ部 63 は、信号線 DTL と書込制御線 WSL の各交点にサブ画素 11 を配置したマトリクス構造を有している。構造上の違いは、サンプリングトランジスタ T1 のチャンネル層の全体を覆うように、チャンネル層の上層に遮光パターン 67 がレイアウトされる点である。

【0052】

ここでの遮光パターン 67 が、特許請求の範囲における「一部パターン」又は「遮光パ

10

20

30

40

50

ターン」に対応する。

図 1 3 に、遮光パターン 6 7 とサンプリングトランジスタ T 1 のチャンネル層との位置関係を示す。図 1 3 に示すように、遮光パターン 6 7 は、サンプリングトランジスタ T 1 のチャンネル層よりも上層に、チャンネル層の全体を覆うようにレイアウトされる。因みに、遮光パターン 6 7 は、周辺パターンから独立又は分離したパターンとして形成される。

【 0 0 5 3 】

なお、遮光パターン 6 7 は、信号線 D T L と同じ金属材料（例えばアルミニウム、モリブデン等）で形成される。

従って、アノード電極 2 9 で反射されてパネル内部に戻ってきた内部散乱光は、遮光パターン 6 7 の表面で再び入射方向に反射される。このため、内部散乱光がチャンネル層に入射されることはない。

10

【 0 0 5 4 】

ここでの遮光パターン 6 7 は、金属配線層（ソース電極 3 3 及びドレイン電極 3 5 ）の形成時に同時に形成することができる。このため、プロセスの追加は無く、製造コストの増加はない。ただし、遮光パターン 6 7 と主電極との隙間が小さすぎると、ショートサーキットが形成されるおそれがある。従って、遮光パターン 6 7 と主電極との間には十分な隙間を確保するものとする。

【 0 0 5 5 】

なお、遮光パターン 6 7 は、サンプリングトランジスタ T 1 だけでなく、駆動トランジスタ T 2 のチャンネル層の全体を覆うようにレイアウトすることが望ましい。もっとも、駆動トランジスタ T 2 については、閾値補正機能が用意されている。従って、この形態例のように、サンプリングトランジスタ T 1 についてののみ、そのチャンネル層の全体を覆う構成を採用しても良い。

20

【 0 0 5 6 】

また、この形態例の場合、遮光パターン 6 7 は、サンプリングトランジスタ T 1 の主電極（ソース電極 3 3 、ドレイン電極 3 5 ）の形成時に同時に形成することができる。従って、遮光パターン 6 7 を追加しても製造コストが上昇することはない。

ところで、遮光パターン 6 7 は、固定電源線 C V L を通じて固定電位 V cnst に制御する。なお、固定電位 V cnst の電源はパネル上のいずれかの位置に配置される。

30

【 0 0 5 7 】

ここでの固定電位 V cnst は、書込制御線 W S L によるオン制御期間以外においてサンプリングトランジスタ T 1 をオン動作させないような電位（すなわち、カットオフ電圧）以下に設定しておくものとする。すなわち、固定電位 V cnst は、書込制御線 W S L によるオン制御期間以外においてサンプリングトランジスタ T 1 の主電極に印加される可能性のある全ての電位よりも閾値電圧以上高くないように設定される。

【 0 0 5 8 】

勿論、固定電位 V cnst の設定には、サンプリングトランジスタ T 1 の閾値電圧 V th の経時変化も考慮する。すなわち、変動分を考慮して予め十分なマージンを用意する。これにより、予期せぬタイミングでサンプリングトランジスタ T 1 がオン動作し、保持容量 C s の保持電位が変化するのを防ぐことができる。

40

【 0 0 5 9 】

（ 2 ）書込制御スキマナの構成

図 1 4 に、画素回路 1 1 と各駆動回路との接続関係を示す。図 1 4 に示すように、画素回路 1 1 と各駆動回路との接続関係は、図 2 に示す接続関係と同じである。すなわち、書込制御スキマナ 6 5 によって駆動制御される書込制御線 W S L は、サンプリングトランジスタ T 1 のゲート電極と接続され、電源線スキマナ 7 によって駆動制御される電源線 D S L は、駆動トランジスタ T 2 の一方の主電極と接続される。

【 0 0 6 0 】

この形態例に特徴的な部分は、書込制御スキマナ 6 5 である。この書込制御スキマナ 6 5 に新たな機能は、階調輝度の違いによる移動度補正時間の最適化技術である。

50

図 15 に、階調輝度と対応する最適な移動度補正時間との関係を示す。なお図 15 の横軸は移動度補正時間であり、図 15 の縦軸は階調輝度（信号電位  $V_{sig}$ ）である。

【0061】

図 15 に示すように、高輝度（ホワイト階調）の場合、移動度  $\mu$  が大きい駆動トランジスタ T2 の輝度レベルと移動度  $\mu$  が小さい駆動トランジスタ T2 の輝度レベルは、移動度補正時間が  $t_1$  の時点で同じになる。すなわち、高輝度画素の移動度補正時間は  $t_1$  であることが望まれる。

【0062】

一方、低輝度（グレー階調）の場合、移動度  $\mu$  が大きい駆動トランジスタ T2 の輝度レベルと移動度  $\mu$  が小さい駆動トランジスタ T2 の輝度レベルは、移動度補正時間が  $t_2$  の時点で同じになる。すなわち、低輝度画素の移動度補正時間は  $t_2$  であることが望まれる。

【0063】

従って、移動度補正時間を固定する駆動方式を採用すると、特定の輝度レベル以外の画素回路では移動度補正時間に過不足が発生してしまう。この過不足は、最悪の場合、輝度ムラやスジとして視認されてしまう。

そこで、書込制御スキャナ 65 には、各画素の輝度レベルに応じて各画素回路の移動度補正時間を自動調整する機能を搭載する。

【0064】

すなわち、高輝度レベルに対応する画素回路では移動度補正時間が自動的に短くなり、低輝度レベルに対応する画素回路では移動度補正時間が自動的に長くなるように調整される駆動機能を採用する。

なお、移動度補正時間は、サンプリングトランジスタ T1 のオン動作時間として与えられる。

【0065】

そこで、この形態例の場合には、移動度補正期間に対応するサンプリングトランジスタ T1 の書込制御信号を図 16 に示す波形に制御できる機能を搭載する書込制御スキャナ 65 を提案する。図 16 に示す書込制御信号は、急峻に電位が低下する波形領域と緩やかに電位が低下する波形領域を有している。

【0066】

この書込制御信号の採用により、高輝度画素では、サンプリングトランジスタ T1 のゲート・ソース間電圧  $V_{gs}$  が、波形が急峻に変化する領域で閾値電圧  $V_{th}$  より小さくなる（自動的にカットオフする）。一方、低輝度画素では、サンプリングトランジスタ T1 のゲート・ソース間電圧  $V_{gs}$  が、波形が緩やかに変化する領域で閾値電圧  $V_{th}$  より小さくなる（自動的にカットオフする）。

【0067】

このことは、信号電位  $V_{sig}$  の大きさに応じて各画素の移動度補正時間が自動的に調整され、信号電位  $V_{sig}$  が異なっても最適な移動度補正動作が確保されることを意味する。

図 17 に、前述した書込制御信号を発生する書込制御スキャナ 65 の部分構成例を示す。なお、図 17 に示す構成は、1つの水平ラインに対応する構成である。従って、画面内の垂直方向には、図 17 に示す構成の回路が垂直解像度数分だけ配置される。

【0068】

以下では、この部分回路も書込制御スキャナ 65 と呼ぶ。書込制御スキャナ 65 は、シフトレジスタ 71、2 段のインバータ回路 73、75 で構成されるバッファ回路、レベルシフタ 77 及び 1 段のインバータ回路 79 で構成される出力バッファ回路で構成される。

この構成自体は一般的である。特徴的な構成は、インバータ回路 79 に供給される電源電圧パルス  $WSP$  の波形レベルが図 16 に示す特性で低下する点である。

【0069】

勿論、この波形レベルの低下が出現するタイミングは、図 18 に示すように、各水平ラインの移動度補正期間に位相同期して実行される必要がある。

10

20

30

40

50

図 19 に、書込制御スキャナ 65 に供給される電源電圧パルス W S P を発生する回路デバイスの構成を示す。

【 0 0 7 0 】

電源電圧パルス W S P は、タイミングジェネレータ 81 と駆動電源発生部 83 により生成される。タイミングジェネレータ 81 は、書込制御スキャナ 65 だけでなく、電源線スキャナ 7 及び水平スキャナ 9 に駆動パルス（矩形波）を供給する回路デバイスである。なお、駆動パルスの立ち下がりタイミングは、移動度補正の開始タイミングに対して所定時間だけ遅れたタイミングに設定される。

【 0 0 7 1 】

駆動電源発生部 83 は、矩形波状の駆動パルスに基づいて、立ち下がり時の波形が 2 段階に折れ曲がる駆動電圧パルス W S P（図 18）を発生する回路デバイスである。

図 20 に、駆動電源発生部 83 の回路例を示す。図 20 に示す駆動電源発生部 83 は、2 個のトランジスタと、1 個の容量と、3 個の固定抵抗と、2 個の可変抵抗により構成される。

【 0 0 7 2 】

駆動電源発生部 83 は、駆動パルスをアナログ処理し、立ち下がり時の波形が 2 段階に折れ曲がる電源電圧パルス W S P を発生する。すなわち、1 段目の立ち下がり波形の傾斜角度が大きく、2 段目の立ち下がり波形の傾斜が小さい電源電圧パルス W S P を発生する。

【 0 0 7 3 】

（ B - 2 ） 駆動動作及び効果

この形態例の場合、移動度補正期間の動作以外は、前述した図 3 の駆動動作と同じである。なお、各サブ画素 11 からパネル表面に射出される光束の一部は、内部散乱光としてガラス基板 21 の内側に残留する。

【 0 0 7 4 】

しかし、この形態例の場合には、サンプリングトランジスタ T1 のチャネル層の上面に配置した遮光パターン 67 により、チャネル層への内部散乱光の入射が遮光される。

かくして、サンプリングトランジスタ T1 の閾値電圧  $V_{th}$  の変動は抑制され、移動度補正時間の最適状態が維持される。

【 0 0 7 5 】

しかも、この内部散乱光の遮光は、この形態例で提案する移動度補正動作時の駆動方式との組み合わせにおいてより高い効果が期待できる。

前述したように、この形態例の場合には、信号電位  $V_{sig}$  の大きさに応じて移動度補正時間が自動的に最適化されるように、移動度補正の開始から一定時間後に電源電圧パルス W S P が 2 段階に低下する波形を採用する。

【 0 0 7 6 】

このため、図 21（A）に示すように、閾値電圧  $V_{th}$  の変動が大きくなると、移動度補正時間が大きく変化してしまう。特に、電源電圧パルス W S P が急峻に低下する領域が最適な移動度補正時間である信号電位  $V_{sig}$  の場合、閾値電圧  $V_{th}$  が低下すると、サンプリングトランジスタ T1 のオン時間が大きく変化してしまう。このことは、移動度補正時間の電源電圧パルス W S P の波形を 2 段階に鈍らせて低下させる駆動方式に固有の問題である。

【 0 0 7 7 】

しかし、この形態例の場合には、内部散乱光の遮光により閾値電圧  $V_{th}$  の変化を最小化できるので、図 21（B）に示すように、実際の移動度補正時間が各信号電位  $V_{sig}$  について最適化された移動度補正時間から大きく変化することを防ぐことができる。

このように、内部散乱光の遮光はそれ自体でも移動度補正時間の動作点の安定に寄与できるだけでなく、移動度補正時間長の最適化技術と組み合わせることにより、より高い効果を実現することができる。

【 0 0 7 8 】

## (C) 他の形態例

## (C-1) 遮光パターンへの他の給電例

前述した形態例の場合には、遮光パターン 67 に固定電位  $V_{cnst}$  を給電する場合について説明した。しかし、遮光パターン 67 をパルス電源で駆動しても良い。なお、パネルの断面構造は図 13 に示す構造と同じであるものとする。

## 【0079】

図 22 に有機 EL パネルの構造例を示し、図 23 に画素回路内の接続例を示す。図 22 及び図 23 に示す有機 EL パネル 91 の場合、遮光パターン 67 は、可変電源線  $V_{SL}$  を通じてパルス電圧源 93 に接続される。なお図 22 では、パルス電圧源 93 が全ての画素回路 11 に接続されているように描いているが、パルス電圧源 93 は水平ライン単位で用

10

## 【0080】

勿論、パルス電圧源 93 が発生する電位は、書込制御線  $W_{SL}$  によるオン制御期間以外においてサンプリングトランジスタ  $T_1$  をオン動作させないような電位（すなわち、カットオフ電圧）以下に設定しておくものとする。この条件を満たす限り、駆動パルスの切り替えタイミングは任意である。勿論この場合も、パルス電圧源 93 が発生する電位は、サンプリングトランジスタ  $T_1$  の閾値電圧  $V_{th}$  の経時変化を考慮する。

## 【0081】

図 24 に有機 EL パネルの構造例を示し、図 25 に画素回路内の接続例を示す。図 24 及び図 25 に示す有機 EL パネル 101 の場合、遮光パターン 67 は書込制御線  $W_{SL}$  に接続される。すなわち、サンプリングトランジスタ  $T_1$  はダブルゲート構造の薄膜トランジスタを構成する。この接続例は、図 22 及び図 23 に示した給電例の一例に当たる。

20

## 【0082】

## (C-2) 遮光パターンの材料

前述した形態例の場合には、遮光パターン 67 が薄膜トランジスタ  $T_2$  の電極配線と同じ金属材料である場合について説明した。すなわち、遮光パターン 67 が内部散乱光の全てを入射方向に反射できる材料を想定した。しかし、遮光パターン 67 は、電極配線とは異なる金属材料で形成されていても良い。

## 【0083】

なお、遮光パターン 67 は内部散乱光の全てを入射方向に反射することができなくても良い。透過する光量を減少することができれば閾値電圧の変動効果を低減することができれば、一定の効果を期待できるからである。例えば、遮光パターン 67 は、金属原子を注入した半導体材料でも良い。また例えば、遮光パターン 67 は、ブラックフィルタその他の濃色系の有機材料でも良い。

30

## 【0084】

## (C-3) 他の画素回路例

前述した形態例では、画素回路 11 が 2 個の薄膜トランジスタ  $T_1$ 、 $T_2$  と 1 個の保持容量  $C_s$  とで構成される場合について説明した。

しかし、本発明は、画素回路 11 の構造とは無関係である。従って、画素回路 11 の構成やその駆動方法は任意である。

40

また、形態例の場合には、薄膜トランジスタ  $T_1$  がボトムゲート構造の場合について説明した。しかし、薄膜トランジスタ  $T_1$  はトップゲート構造でも良い。

## 【0085】

## (C-4) 他のパネル構造

前述した形態例の場合には、EL 表示パネルがトップエミッション構造の場合について説明した。

しかし、EL 表示パネルはボトムエミッション構造でも良い。ここで、ボトムエミッション構造とは、回路基板側から光が射出されるタイプのパネル構造をいうものとする。

## 【0086】

50

## (C - 5) 製品例

## (a) 電子機器

前述の説明では、有機ＥＬパネルを例に発明を説明した。しかし、前述した有機ＥＬパネルは、各種の電子機器に実装した商品形態でも流通される。以下、他の電子機器への実装例を示す。

## 【００８７】

図２６に、電子機器１１１の概念構成例を示す。電子機器１１１は、前述した有機ＥＬパネル１１３、システム制御部１１５及び操作入力部１１７で構成される。システム制御部１１５で実行される処理内容は、電子機器１１１の商品形態により異なる。また、操作入力部１１７は、システム制御部１１５に対する操作入力を受け付けるデバイスである。操作入力部１１７には、例えばスイッチ、ボタンその他の機械式インターフェース、グラフィックインターフェース等が用いられる。

10

## 【００８８】

なお、電子機器１１１は、機器内で生成される又は外部から入力される画像や映像を表示する機能を搭載していれば、特定の分野の機器には限定されない。

図２７に、その他の電子機器がテレビジョン受像機の場合の外観例を示す。テレビジョン受像機１２１の筐体正面には、フロントパネル１２３及びフィルターガラス１２５等で構成される表示画面１２７が配置される。表示画面１２７の部分が、形態例で説明した有機ＥＬパネルに対応する。

## 【００８９】

20

また、この種の電子機器１１１には、例えばデジタルカメラが想定される。図２８に、デジタルカメラ１３１の外観例を示す。図２８（Ａ）が正面側（被写体側）の外観例であり、図２８（Ｂ）が背面側（撮影者側）の外観例である。

## 【００９０】

デジタルカメラ１３１は、保護カバー１３３、撮像レンズ部１３５、表示画面１３７、コントロールスイッチ１３９及びシャッターボタン１４１で構成される。このうち、表示画面１３７の部分が、形態例で説明した有機ＥＬパネルに対応する

## 【００９１】

また、この種の電子機器１１１には、例えばビデオカメラが想定される。図２９に、ビデオカメラ１５１の外観例を示す。

30

ビデオカメラ１５１は、本体１５３の前方に被写体を撮像する撮像レンズ１５５、撮影のスタート／ストップスイッチ１５７及び表示画面１５９で構成される。このうち、表示画面１５９の部分が、形態例で説明した有機ＥＬパネルに対応する。

## 【００９２】

また、この種の電子機器１１１には、例えば携帯端末装置が想定される。図３０に、携帯端末装置としての携帯電話機１６１の外観例を示す。図３０に示す携帯電話機１６１は折りたたみ式であり、図３０（Ａ）が筐体を開いた状態の外観例であり、図３０（Ｂ）が筐体を折りたたんだ状態の外観例である。

## 【００９３】

携帯電話機１６１は、上側筐体１６３、下側筐体１６５、連結部（この例ではヒンジ部）１６７、表示画面１６９、補助表示画面１７１、ピクチャーライト１７３及び撮像レンズ１７５で構成される。このうち、表示画面１６９及び補助表示画面１７１の部分が、形態例で説明した有機ＥＬパネルに対応する。

40

## 【００９４】

また、この種の電子機器１１１には、例えばコンピュータが想定される。図３１に、ノート型コンピュータ１８１の外観例を示す。

ノート型コンピュータ１８１は、下型筐体１８３、上側筐体１８５、キーボード１８７及び表示画面１８９で構成される。このうち、表示画面１８９の部分が、形態例で説明した有機ＥＬパネルに対応する。

## 【００９５】

50

これらの他、電子機器 1 1 1 には、オーディオ再生装置、ゲーム機、電子ブック、電子辞書等が想定される。

【 0 0 9 6 】

( C - 6 ) 他の表示デバイス例

前述の形態例においては、発明を有機 E L パネルに適用する場合について説明した。

しかし、前述した駆動技術は、その他の E L 表示装置に対しても適用することができる。例えば L E D を配列する表示装置その他のダイオード構造を有する発光素子を画面上に配列した表示装置に対しても適用できる。例えば無機 E L パネルにも適用できる。

【 0 0 9 7 】

( C - 7 ) その他

前述した形態例には、発明の趣旨の範囲内で様々な変形例が考えられる。また、本明細書の記載に基づいて創作される又は組み合わせられる各種の変形例及び応用例も考えられる。

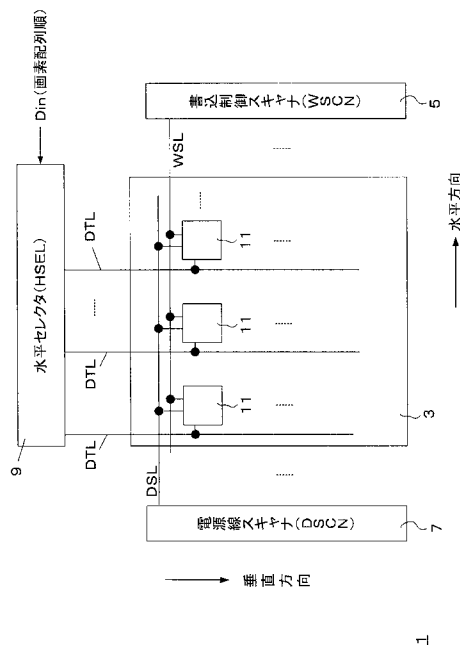
【 符号の説明 】

【 0 0 9 8 】

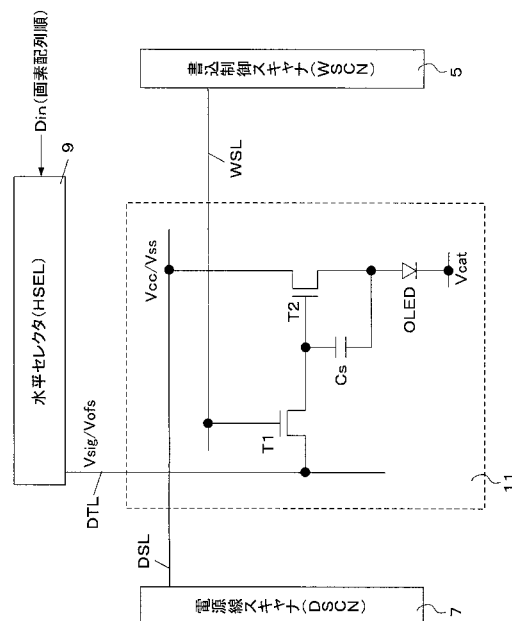
3 1 ... 補助配線、 6 1 ... 有機 E L パネル、 6 3 ... 画素アレイ部、 6 5 ... 書込制御スクヤナ、 6 7 ... 遮光パターン、 8 1 ... タイミングジェネレータ、 8 3 ... 駆動電源発生部

10

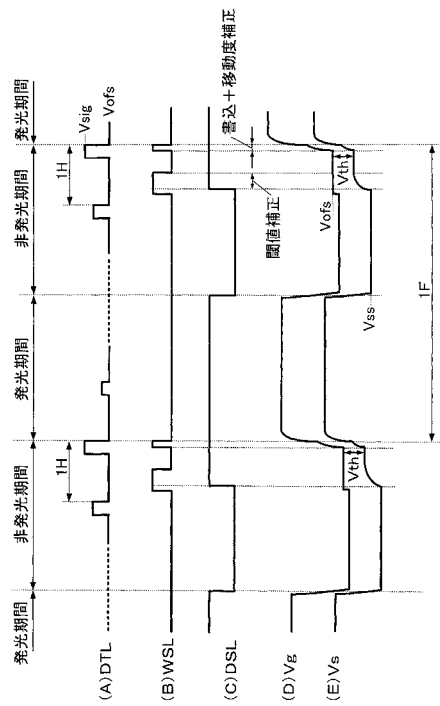
【 図 1 】



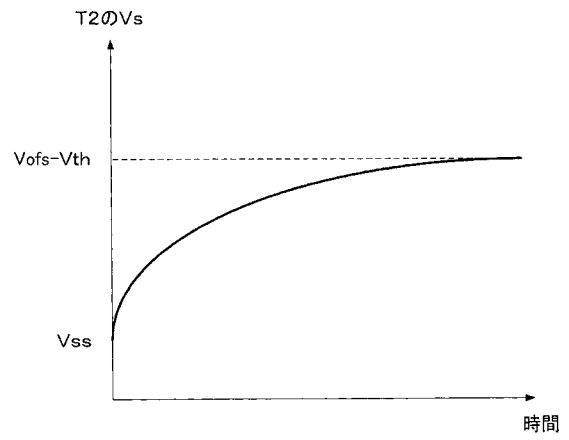
【 図 2 】



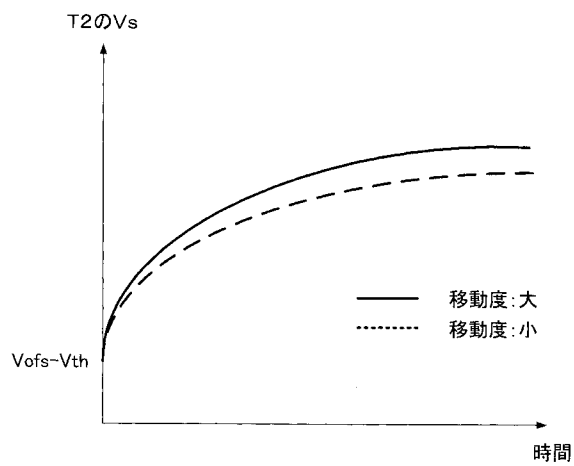
【図 3】



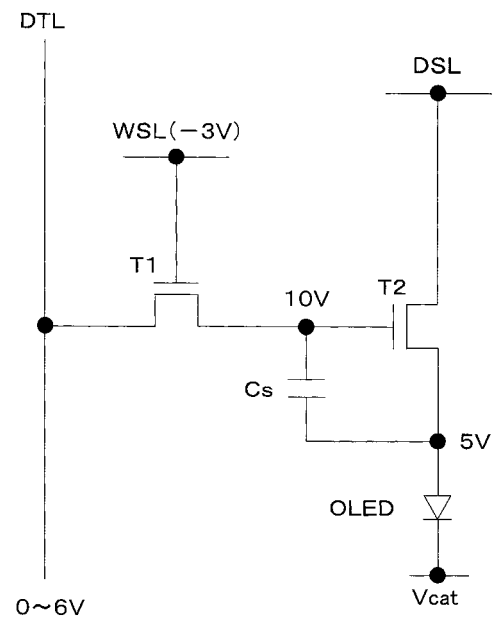
【図 4】



【図 5】

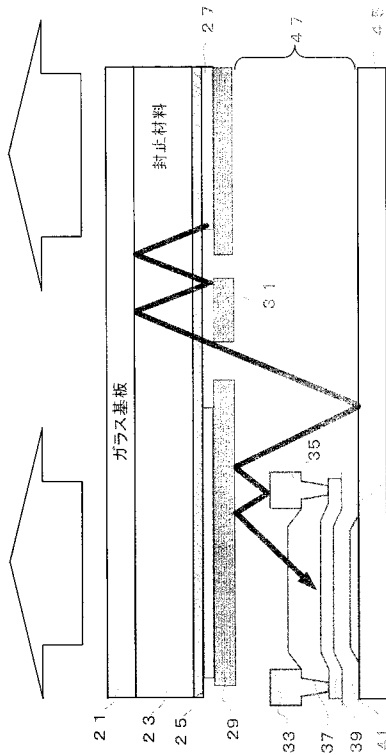


【図 6】

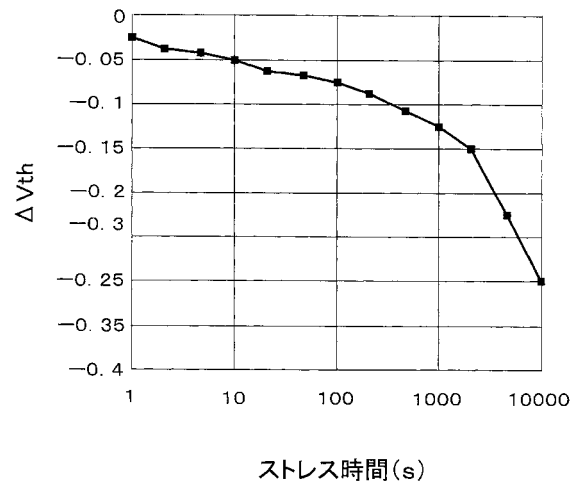




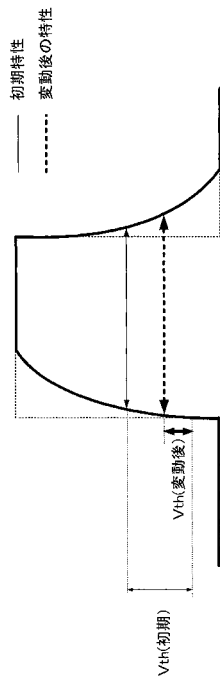
【図 7】



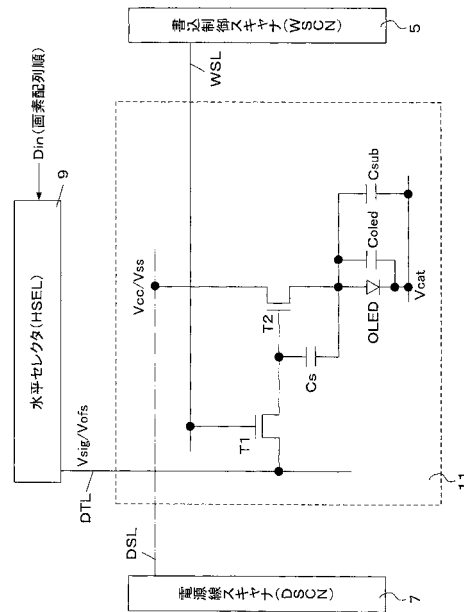
【図 8】



【図 9】

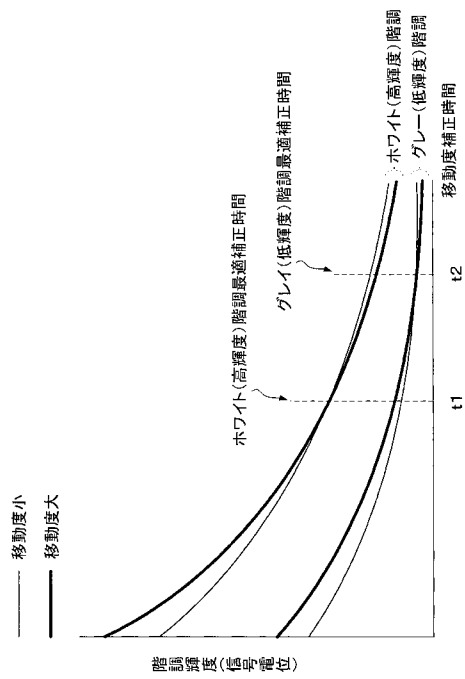


【図 10】

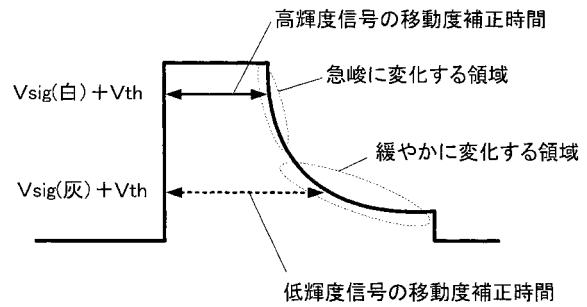




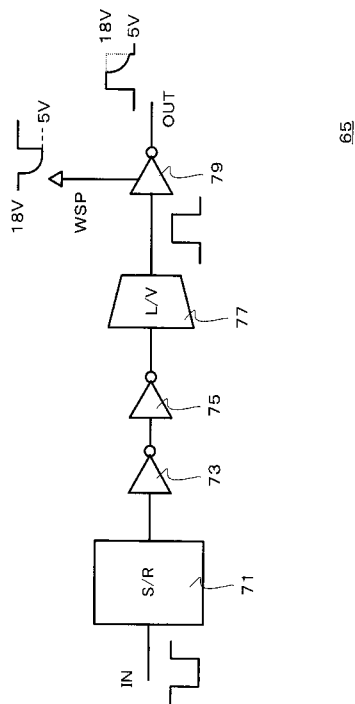
【 図 1 5 】



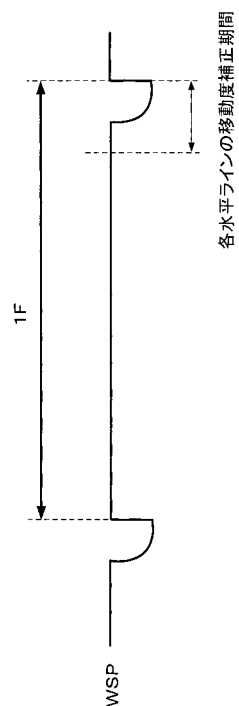
【 図 1 6 】



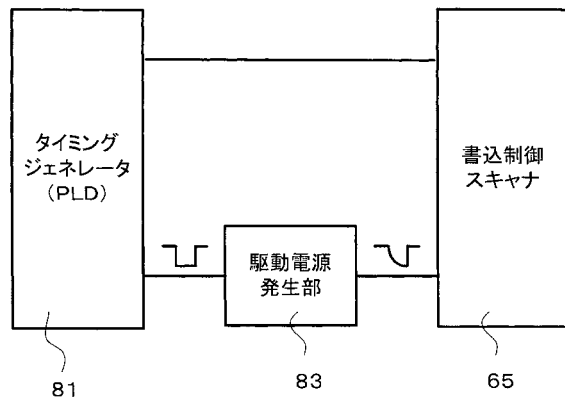
【 図 1 7 】



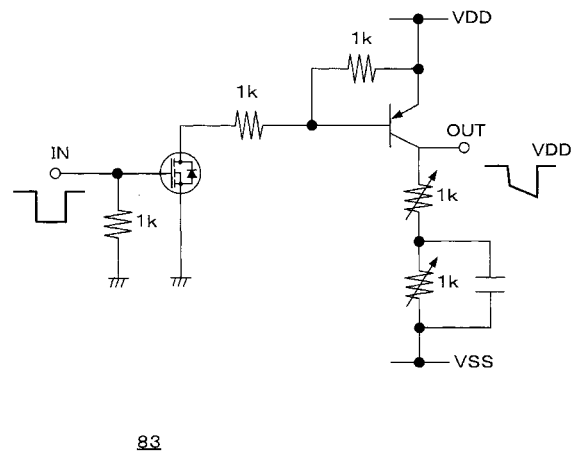
【 ㄨ 1 8 】



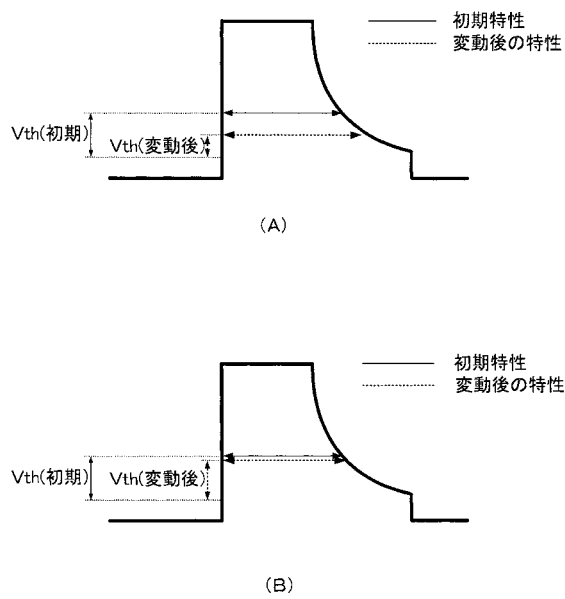
【図 19】



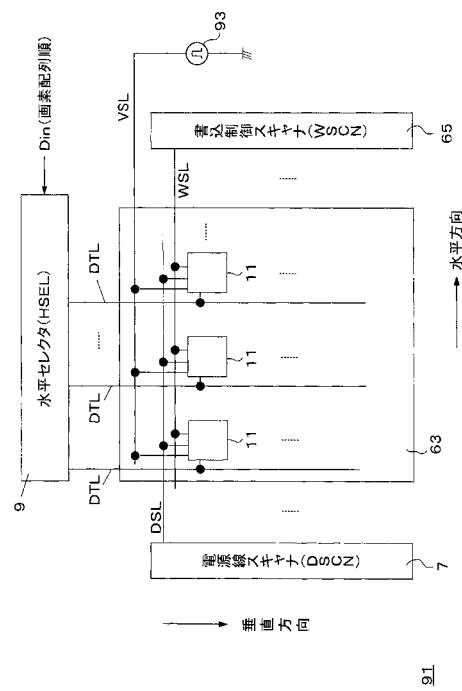
【図 20】



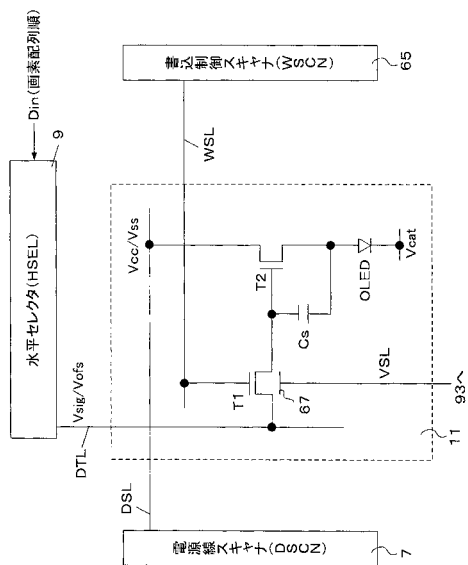
【図 21】



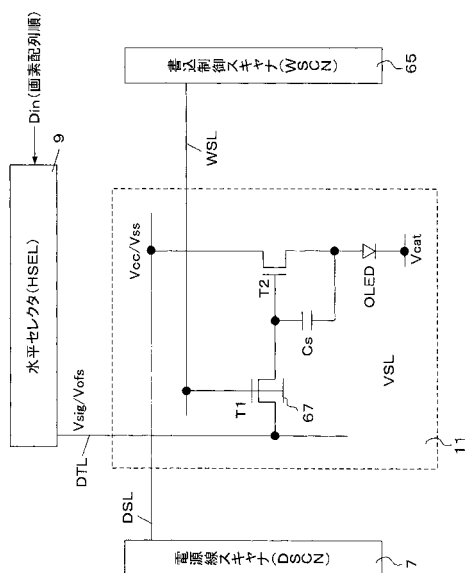
【図 22】



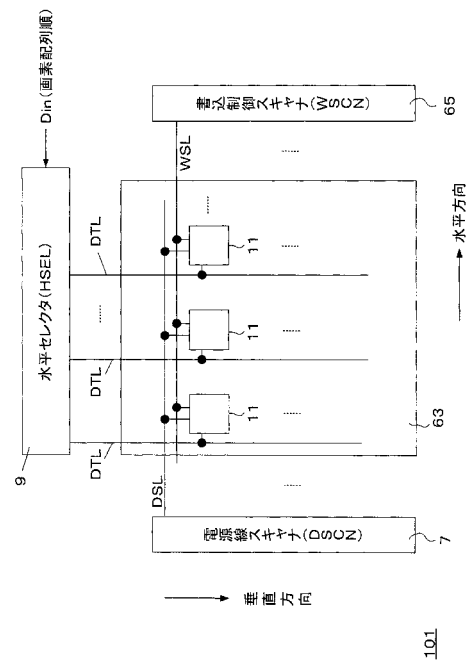
【 図 2 3 】



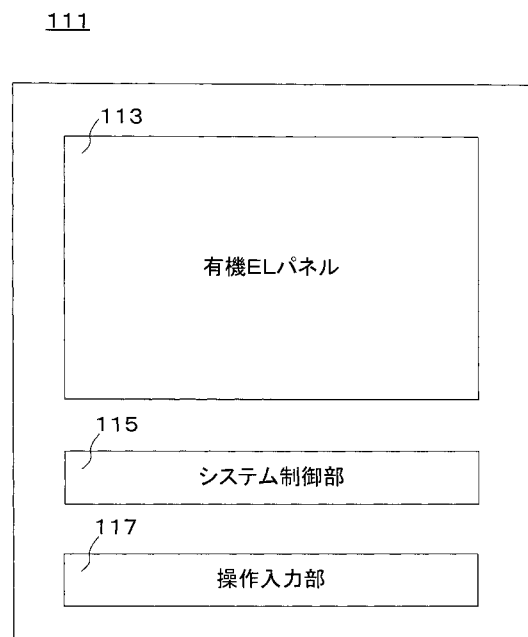
【 ㊦ 2 5 】



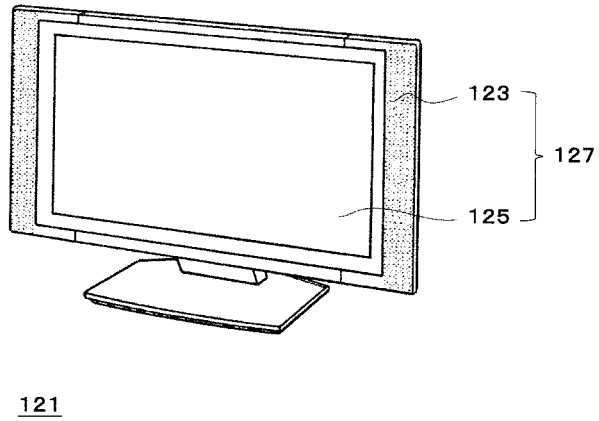
【 図 2 4 】



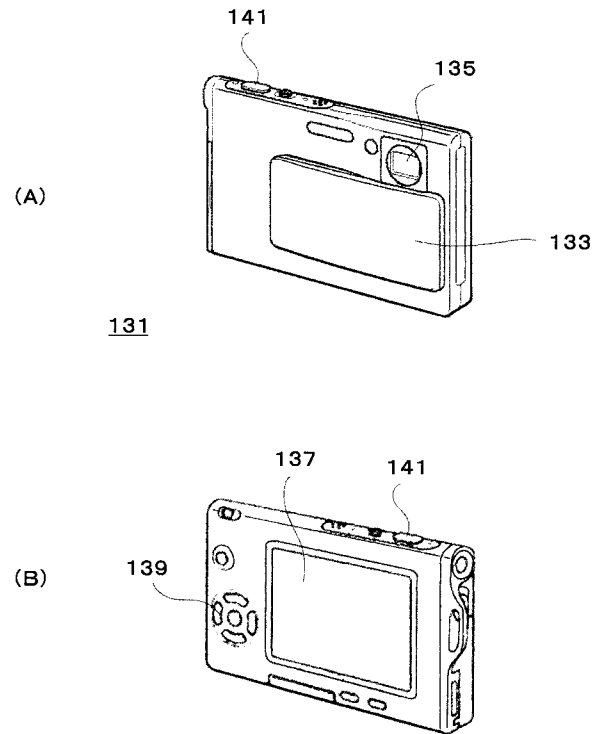
【 ㊦ 2 6 】



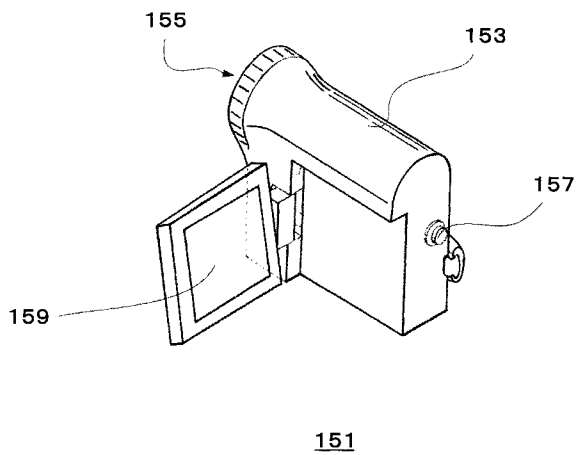
【図 27】



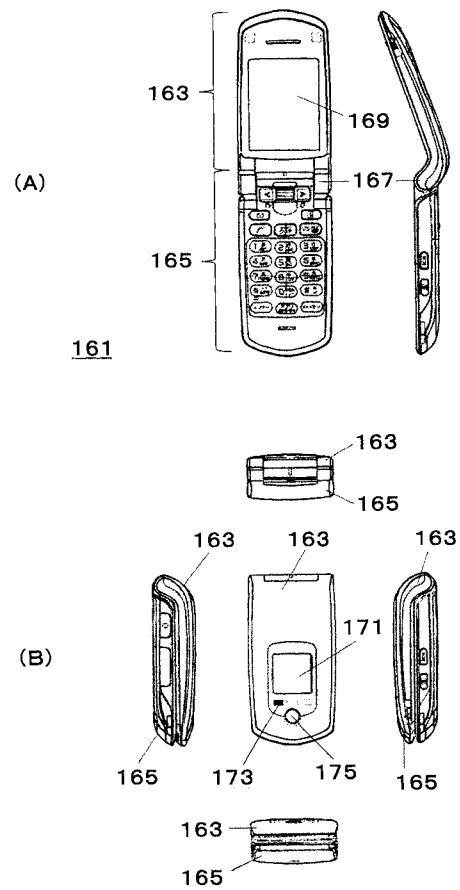
【図 28】



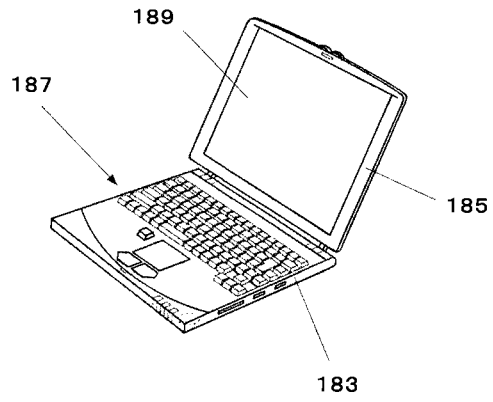
【図 29】



【図 30】



【図 3 1】



181

## フロントページの続き

(51)Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
<b>H 0 1 L 51/50 (2006.01)</b>	G 0 9 G 3/20 6 2 4 B	
	G 0 9 G 3/20 6 1 1 H	
	G 0 9 G 3/20 6 4 2 A	
	G 0 9 G 3/20 6 4 1 D	
	G 0 9 G 3/20 6 8 0 H	
	H 0 5 B 33/14 A	

(72)発明者 内野 勝秀

東京都港区港南 1 丁目 7 番 1 号 ソニー株式会社内

F ターム(参考) 3K107 AA01 BB01 CC02 CC21 CC33 DD39 EE03 EE27 HH04 HH05  
5C080 AA06 BB05 CC03 DD05 EE29 FF11 HH09 JJ02 JJ03 JJ04  
JJ05 JJ06 KK01 KK07 KK43 KK47  
5C094 AA16 AA21 AA53 BA03 BA23 BA27 CA19 DA13 DB01 ED15  
FA02 FB01 FB12 FB14 GA10 HA06 HA07  
5C380 AA01 AA02 AA03 AB06 AB11 AB12 AB18 AB22 AB23 AB24  
AB34 AB45 AC07 AC08 AC09 AC11 BA31 BA38 BA39 BA45  
BB02 BD05 CB14 CB20 CB26 CB31 CC02 CC03 CC04 CC06  
CC07 CC27 CC30 CC33 CC41 CC62 CC71 CD012 CD032 CE01  
CF07 CF22 CF23 CF24 CF25 CF41 CF42 CF43 DA02 DA06  
DA47



专利名称(译)	EL显示板和电子设备		
公开(公告)号	<a href="#">JP2010157514A</a>	公开(公告)日	2010-07-15
申请号	JP2010017669	申请日	2010-01-29
[标]申请(专利权)人(译)	索尼公司		
申请(专利权)人(译)	索尼公司		
[标]发明人	山下淳一 山本哲郎 内野勝秀		
发明人	山下 淳一 山本 哲郎 内野 勝秀		
IPC分类号	H05B33/26 G09F9/30 H01L27/32 G09G3/30 G09G3/20 H01L51/50		
FI分类号	H05B33/26.Z G09F9/30.349.C G09F9/30.338 G09F9/30.365.Z G09G3/30.J G09G3/20.624.B G09G3/20.611.H G09G3/20.642.A G09G3/20.641.D G09G3/20.680.H H05B33/14.A G09F9/30.365 G09G3/3233 G09G3/3266 H01L27/32		
F-TERM分类号	3K107/AA01 3K107/BB01 3K107/CC02 3K107/CC21 3K107/CC33 3K107/DD39 3K107/EE03 3K107/EE27 3K107/HH04 3K107/HH05 5C080/AA06 5C080/BB05 5C080/CC03 5C080/DD05 5C080/EE29 5C080/FF11 5C080/HH09 5C080/JJ02 5C080/JJ03 5C080/JJ04 5C080/JJ05 5C080/JJ06 5C080/KK01 5C080/KK07 5C080/KK43 5C080/KK47 5C094/AA16 5C094/AA21 5C094/AA53 5C094/BA03 5C094/BA23 5C094/BA27 5C094/CA19 5C094/DA13 5C094/DB01 5C094/ED15 5C094/FA02 5C094/FB01 5C094/FB12 5C094/FB14 5C094/GA10 5C094/HA06 5C094/HA07 5C380/AA01 5C380/AA02 5C380/AA03 5C380/AB06 5C380/AB11 5C380/AB12 5C380/AB18 5C380/AB22 5C380/AB23 5C380/AB24 5C380/AB34 5C380/AB45 5C380/AC07 5C380/AC08 5C380/AC09 5C380/AC11 5C380/BA31 5C380/BA38 5C380/BA39 5C380/BA45 5C380/BB02 5C380/BD05 5C380/CB14 5C380/CB20 5C380/CB26 5C380/CB31 5C380/CC02 5C380/CC03 5C380/CC04 5C380/CC06 5C380/CC07 5C380/CC27 5C380/CC30 5C380/CC33 5C380/CC41 5C380/CC62 5C380/CC71 5C380/CD012 5C380/CD032 5C380/CE01 5C380/CF07 5C380/CF22 5C380/CF23 5C380/CF24 5C380/CF25 5C380/CF41 5C380/CF42 5C380/CF43 5C380/DA02 5C380/DA06 5C380/DA47		
代理人(译)	森浩一 吉井正明 山本隆久		
其他公开文献	JP5007844B2		
外部链接	<a href="#">Espacenet</a>		

#### 摘要(译)

要解决的问题：提供一种面板结构，其抑制由于内部散射光的影响引起的阈值电压波动。解决方案：具有符合有源矩阵驱动方法的像素结构的EL显示面板具有提供屏蔽内部散射光的结构。具体地，位于构成像素电路的采样晶体管的沟道层上方的层上的金属布线材料的图案的一部分被布置为阻挡采样晶体管的沟道区域。 Ž

